

8050問題「孤立防いで」

札幌で福祉展

最新の福祉用具の展示やセミナーを行う「ふく展 in さっぽろ2025」が13日、札幌市中央区の市社会福祉総合センター（大通西19）で始まった。80代の親とひきこもりの50代の子どもが生活困窮する「8050問題」をテーマにした講演もあり、当事者家族らが耳を傾けた。

札幌市や市社会福祉協議会などによる実行委員会主催。計45社が介護用ロボットや寝具などを展示し、企業提供のフードロス食品を販売するバザーなども行われた。ひきこもり当事者を支援する札幌のNPO法人レター・ポスト・フレン



ド相談ネットワークの田中敦理理事長は、約2万人と推計される市内の当事者のうち68%が40歳以上であることに触れ、「派遣や非正規など不安定な労働形態の増加で、30代以降にひきこもるケースが増えている」と8050問題の背景を指摘。「家族の孤立を防ぎ、複数のつながり先を持つことが大切だ」と話した。

ふく展で8050問題について話す田中敦理理事長

14日まで。入場無料。午前9時半～午後3時。認知症に関するセミナー（午前10時）、親子向けの絵本の読み聞かせ（午後1時）、肌の美容セミナー（同2時）が行われ、いずれも空席があれば参加できる。

（斉藤千絵）